



少年時代

No.6

こどもを主人公に、友人や家族との関わりが織りなす物語を、豊かな情感と奔放な想像力で映像化した2作品を35mmフィルムで上映します。

「毎日が夏休み」監督・金子修介、出演・佐伯日菜子によるトークショーも開催。この秋は米子市公会堂の大スクリーンで映画をお楽しみください。



「毎日が夏休み」

秋の映画まつり・令和6年度優秀映画鑑賞推進事業・第80回米子市秋の文化祭参加事業

2024年

米子名画シアター 10/6(日)

9:30開場

1日券500円

Feel友の会会員 400円

会場 米子市公会堂大ホール

上映スケジュール

10:00~12:00 「少年時代」(1990年)

13:00~13:30 「毎日が夏休み」トークショー

「毎日が夏休み」は大島弓子の少女漫画作品で、1994年に監督・金子修介によって映画化されました。主役・スギナ役の佐伯日菜子の映画デビュー作でもあります。今回は、監督・金子修介、俳優・佐伯日菜子が本作について語ります。

13:30~15:10 「毎日が夏休み」(1994年)

Guest



佐伯 日菜子 (俳優)



金子 修介 (映画監督)

Ticket

プレイガイド:米子市公会堂・米子市文化ホール・米子市淀江文化センター・米子市立山陰歴史館

お問い合わせ 米子市公会堂 0859-22-3236

〔バス割引券〕 市内路線バスで当日(10/6)のみ使える200円割引券をお配りします。ご希望の方は、チケット購入時にお申し付けください。

※往復ご利用の方は2枚お配りします。 ※小学生以下は使用できません。

〔駐車場〕 ひまわり駐車場(1時間無料)/YEASTY PLACE(1時間無料)/米子市役所駐車場(6時間無料)※無料処理をいたしますので、必ず駐車券をお持ちください。

主催: 米子市・(一財)米子市文化財団 [米子市公会堂]・国立映画アーカイブ

特別協力: 文化庁 / 一般社団法人日本映画製作者連盟 / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 株式会社 KADOKAWA 協力: 米子映画事変



少年時代

[1990年 「少年時代」製作委員会]

(カラー/アメリカン・ビスタ/モノラル/117分)

原作 柏原兵三

藤子不二雄[Ⓐ]

脚本 山田太一

監督 篠田正浩

出演

岩下志麻(風間静江役)、細川俊之(風間修作役)、藤田哲也(風間進二役)



今回の名画シアターは、
不朽の名作漫画が原作となった
二作品をお届けします。

学童疎開の体験を綴った作家・柏原兵三による自伝的小説「長い道」から着想を得て、藤子不二雄[Ⓐ]自身の戦中体験を盛り込んだ漫画「少年時代」を、藤子[Ⓐ]自らがプロデューサーとなって監督に篠田正浩を指名し、篠田の後輩にあたる山田太一を脚本に迎えて映画化した。「週刊少年マガジン」連載当初は読者からの反響も限られていたが、1979年の連載終了後に圧倒的な支持を受け、藤子[Ⓐ]が長いあいだ心に温めていた企画である。東京から富山に疎開してきた小学5年生の進二と、地元のガキ大将・武との触れ合いを軸として、1944年の夏から終戦の夏へといたる季節の移り変わりを表す美しい映像とともに、少年たちの心の成長の様子を丹念に描き出している。逼迫する戦況や大人たちの姿はほとんど画面上から遠ざけられ、東京出身者と疎開先の少年たちを取り巻くぎくしゃくした関係や、いじめ等が淡々と描かれる。やがて終戦が訪れて進二が東京に帰る日となり、みるみる小さくなってゆく汽車を必死になって追いかける武の姿で、少年たちの心のわだかまりも一気に解消される。主題歌にはロングセラーとなっている井上陽水の同名オリジナル曲。日本アカデミー賞・最優秀作品賞ほか受賞多数、「キネマ旬報」ベストテン第2位。

毎日が夏休み

[1994年 パイオニア LDC=サンダンス・カンパニー]

(カラー/アメリカン・ビスタ/モノラル/94分)

原作 大島弓子

脚本・監督 金子修介

出演

佐野史郎(林海寺成雪役)、佐伯日菜子(娘 スギナ役)、

風吹ジュン(妻 良子役)、高橋ひとみ(草本紅子役)



東京郊外の新興住宅地に住む林海寺家は、父も母も再婚同士、娘はいじめにあって登校拒否、父も会社に出社せず外でぶらぶらしている。そんな娘と父がある日奮起し、おろおろする母を尻目に「何でも屋」を開業したことから家族の新しい展開が始まる。家長としての威厳とはまるで無縁の父親を演じる佐野史郎は、情念よりも「軽さ」を重視するこの映画の空気を体現。また雑誌モデルとして活躍していた佐伯日菜子が、娘のスギナ役で映画デビューを果たした。監督の金子修介とスタッフ陣は、少女漫画の第一人者大島弓子の原作が備える繊細さに対して、乾いたタッチと抽象的なカメラアングル、そして個性的なキャスティングで挑み、日本の家族像を爽やかに戯画化した。

「毎日が夏休み」トークショー・ゲストプロフィール

佐伯日菜子(俳優) Saeki Hinako

1977年生まれ。1994年、デビュー作となる映画『毎日が夏休み』で主演を務め第18回日本アカデミー賞新人賞ほか受賞。1998年の映画「らせん」では山村貞子役を演じた。その後も数多くの映画に出演し、2016年「メッセージ episode1 みえちゃんからの伝言」、2019年「僕はイエス様が嫌い」、「イソップの思うツボ」、2022年「森の中のレストラン」、2023年『金石ラーメン物語』、『散歩屋ケンちゃん』、『嘘の転校生』、『リゾートバイト』、『青すぎる、青』、本年2024年は「しまねこ」が9月公開。また田口清隆監督演出のテレビドラマ版『仮面ライダーガッチャード』にも出演するなど、話題作に多く出演している。

金子修介(映画監督) Kaneko Shusuke

1955年、東京都生まれ。東京学芸大学教育学部卒業後、日活株式会社入社。84年に監督デビュー。深津絵里のデビュー作「1999年の夏休み」('88)が話題となる。その後も、中山美穂、宮沢りえ、斉藤由貴、佐伯日菜子などの若手女優の話題作を監督。その他の主な監督作品に『就職戦線異状なし』('91)、『平成ガメラ三部作』('95、'96、'99)、『ゴジラ・モスラ・キングギドラ 大怪獣総攻撃』('01)、『デスノート』前・後編('06)。最新作『ゴールド・ボーイ』が2024年3月に公開。

第13回 米子映画事変

同日開催

令和6年
10月5日・6日
大ホール・和室・集会室

米子出身
岡本喜八監督の
時代を先取りした
ミュージカル喜劇!



「あゝ爆弾」

映画を観て、語って、共有する!
「交遊」を広げよう☆



「わんぱく王子の大蛇退治」

日本のアニメを
生み出した
最高傑作
スタッフ陣の

米子名画シアターとチケットが別です。ご入場には、2日間通しのフリーパスをご購入ください。

一般 ¥2,000
大学生以下 ¥1,000
e+(イープラス)などで購入できます。

その他の企画
詳細はコチラ!



http://yonago-eiga.com/
X @yonagofilm
YonagoEigaJihen